

第11回 伊賀市非核平和推進 中学生広島派遣団レポート

市内の中学生を代表して
私たち10人が
現地に行ってきました!



《行程表》

1日目

- 被爆体験講話聞き取り
- 爆心地・原爆ドーム見学
- 千羽鶴献納(原爆の子の像)
- 広島平和記念資料館見学

2日目

- 平和記念式典参列(平和記念公園)
- 平和演劇鑑賞(広島国際会議場)

市内の各中学校の代表として、生徒10人を8月5日から2日間、広島市へ派遣しました。

参加した生徒は、それぞれの学校の生徒一人ひとりが平和への祈りを込めて折った千羽鶴を原爆の子の像へ捧げました。また、平和記念式典への参加や平和記念資料館の見学、被爆体験講話の聞き取りなどを通じて、70年前に起きた人類史上最初の原子爆弾による悲惨な現実を見て、聞いて、肌で感じて、非核平和への思いを新たにしました。

その内容を生徒のレポートからお伝えします。



被爆体験講話

11歳のとき、爆心地から約2km離れた自宅で被爆した瀬越睦彦さんからお話を伺いました。

◆青山中学校 佐合 奏音

瀬越さんからお話を聞かせていただきました。原爆は一発でたくさん罪のない人の命を奪ってしまうことを、改めて教わりました。

「戦争は子どもの心を鬼にする」という言葉が、とても心に残りました。

◆阿山中学校 土永 瑚々菜

瀬越さんから被爆体験講話を聞かせていただきました。お米を、一粒でも食べられることに喜びを感じると何度もおっしゃっていました。

私は、お米を好きだけ食べられることに、もっと感謝して食べようと思いました。



▲被爆体験講話に聞き入る生徒たち





非核平和への
願いを込めて…

◀原爆の子の像（写真中央）と、平和への願いを込めて千羽鶴を捧げる生徒たち

◀「テレビや写真で見ると実際に現地に行ってみるとでは雰囲気がかく違いました。原爆ドームの周りだけが色を失って、時間が止まっているようでした。」（派遣団 土永さん談）

原爆ドーム

原爆の惨禍を伝え、核廃絶と人類の平和を求める誓いのシンボルである原爆ドームの見学を行いました。

◆緑ヶ丘中学校 北村 友嗣

僕は、原爆ドームを目の前にして、すごく悲しい気持ちになりました。また、その姿からは原爆の恐ろしさがとても感じられました。感じたことや平和の大切さについて、少しでも多くの人に伝えていきたいです。



▲原爆パネル展を眺める様子

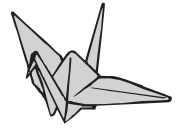
原爆の子の像

市内の中学生一人ひとりが折った千羽鶴を捧げました。

◆城東中学校 亀井 翔天

原爆の子の像には、多くの千羽鶴が捧げられていて、それは全国各地から集まったものでした。それだけでなく捧げられているということは、それだけ多くの人々が、世界の平和を心から祈っているのだと肌で感じられました。





◀爆心地の石碑を見つめる生徒たち
「上空600mはそう遠くはないのに、そんな高さから原爆を落とされたこと知って、被爆された人たちのことを考えずにはいられませんでした。」(派遣団 藤川さん談／写真中央)



▶平和記念資料館では、原爆で溶けた瓦などの展示物に実際に手で触れることができました。



▶「原爆が落とされる前の、広島市の街の模型を見ました。原爆には、これだけ大きな街がたった一度で吹き飛んでしまうほどの威力があったんだと感じました。」(派遣団 二階堂さん談)



平和記念資料館

原爆の惨状を示す写真や資料の見学を行いました。

◆柘植中学校 川口 さくら

資料館には、事前学習会で見た映像作品『夏服の少女たち』に出てきた夏服が展示されていました。実際に見ると、原爆や戦争の恐ろしさを改めて感じました。だからこそ、毎日勉強できることに感謝し、今の時を精一杯楽しみたいと思います。

◆上野南中学校 藤山 裕大

僕は、平和記念資料館に行き、原爆で被爆した人の写真を見ました。写真には、全身にやけどを負った人や、からだ全体にガラスがさされた人がいました。それを見て、今では考えられないほど苦しんでいたとわかりました。

▶「骨組みだけが残った原爆ドームから当時の原爆の恐ろしさを知りました。何もかもがなくなってしまったこの場所を見て、言葉にできない気持ちになりました。」(派遣団 北村さん談／写真中央)



◀式典会場に供えられた花に折り鶴を添える様子。



平和記念式典

平和記念式典（広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式）に参加しました。

◆崇広中学校 二階堂 充教

暑い中、日本各地、世界各国からの参加者で埋め尽くされていた。黙とうの際には辺りが静まりかえり、鐘の音が響きわたった。

こんなにもたくさんの方が平和を願っているのに、なぜ争いが絶えないのだろう。

◆霊峰中学校 藤川 美紀

今年は戦後70年という節目の年であり、たくさんの方が平和記念式典に参加していました。

多くの人が平和を願い、絶対に同じことを繰り返さないように、平和な世界を私たちが作っていくべきだと思いました。

◀式典中、静かに目を閉じて祈りを捧げる生徒たち

「毎年テレビで見ている式典に初めて参加することができました。子どもからお年寄りまでいろいろな国の人に参加し、この場所にいた全ての人と一緒に世界平和を祈りました。」(派遣団 川口さん談/写真右)



▲平和演劇「広島戦災児育成所“童心寺”物語」

平和演劇鑑賞

広島市立舟入高校演劇部による「広島戦災児育成所“童心寺”物語」を鑑賞しました。

◆島ヶ原中学校 梶川 美月

舟入高校演劇部による心のこもった劇に感動しました。

劇中にお母さんとはぐれてしまった男の子がいました。もし自分だったらと考えると涙が出そうになり、戦争は幸せを奪うものなので二度としてはいけないと学びました。

◆大山田中学校 葛原 春音

演劇では、原爆で家族を失った原爆孤児という子どもたちの、力強く生きる姿がありました。

今、私たちが不自由なく幸せに生きていることに感謝し、8月6日の出来事を絶対に忘れてはいけないと感じました。

【問い合わせ】

人権政策・男女共同参画課

☎ 47・1286 FAX 47・1288

